

令和5年度 第5回吉野町教育振興審議会 会議録

日 程 : 令和5年7月28日(金) 午後7時00分～
場 所 : 吉野町中央公民館2階 第3研修室
出席者 : 奥田委員、杉村委員、吉寄委員、辻倉委員、大矢委員、岩見委員
福田委員、東平委員、吉中委員、山田委員、森本委員、中山委員
事務局 : 土居教育長、上林教育次長、山本、中前、玉置
欠席者 : 田中委員

1. 開会

事務局 皆さんこんばんは。皆様におかれましてはご多用の中、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。定刻となりましたので只今から、第5回吉野町教育振興審議会を開催させていただきます。私は吉野町教育振興審議会事務局を務めます、教育委員会事務局次長の上林でございます。どうぞよろしくお願い致します。

それでは開会に先立ちまして、吉野町教育委員会教育長の土居がご挨拶申し上げます。

2. 教育長挨拶

教育長 改めまして皆さんこんばんは。

毎日暑い日が続きまして、ニュースを見ていると38度だとか39度だとか。それって発熱状態なのかなという数字になっております。今日が7月28日で、30日が土曜日の丑の日ということで、鰻が一番売れるという日になるのかなと。

本題とは外れた話をして申し訳ないのですが、今年自宅の庭の梅がたくさん実りました。2年に1回全く実らない年とたわわに実る年がありまして、今年हतわわになる年のようで、一生懸命採集して、漬けて重石を乗せ、今ちょうど土用干しをしているところです。母が梅干しを作るのが大変上手だったのですが、そのところまでは全く至らず、その方法を元気な時に聞いておけば良かったなと後で思っているのですが、ネットを見ながらどうするのだろうと検索しているところです。

先日新聞を見ていましたら、『こどもまんなか』というロゴが出ていました。子ども家庭庁がこどもまんなか社会を推進するためということで、カラフルな色の『こどもまんなか』という全てひらがなのロゴを出していました。これを『希望があれば使っていただきます』というようなことが新聞に載ってまして、いち早く電話をしたのですが、まだもう少し準備がかかるようです。

そのようなところで、国も子どもを何とか増やさないといけない、子どもを育てやすい国を作っていないといけないと、本気になっているのかどうか、というようなところかと思えます。今年人口の減り幅が最大だそうです。人口の減り幅というのは出生者数-死亡者数。出生者数が過去最低、死亡者数が過去最大。よって日本の人口減少数が最大と。こういう時代になってまいりました。子どもをどうするかとか、子どもをいかに産みやすく、安心して育てていけるという環境を作っていくのも「国は何をしているのか」というのではなく、我々の直近の課題かと考えます。自分たちがどうしていくのか

をよく考えないといけないということです。この教育振興審議会という会は、まさに典型的な会でございますのでいろいろなご意見を忌憚なく出していただけましたら我々も助かります。吉野町の子ども達をどう育てていくか、指針を示していけたらと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

事務局 ありがとうございます。続きまして、奥田会長様にご挨拶頂きたいと思います。よろしくお願い致します。

3. 会長挨拶

奥田会長 皆さんこんばんは。本日ご出席いただきおられます皆様方、お仕事を終えていただき、この場に駆けつけていただいている方がほとんどではないかなと思います。貴重な時間を使っていただき本当にありがとうございます。

今もお話でしたが、東京も本当に暑いです。京都に降りた時は、もっと熱かったです。ただ、それに比べると吉野町へ入った時には、間帯にもよりますが少し涼しいなと感じました。そうではないと感じられる方もおられると思いますが本当に暑いと思う日が続きます。

私は、大学で教職課程を担当しているということで、以前この場でお話しさせていただいたか分からないのですが、今教員採用試験の1次試験の結果が出て、一喜一憂して今度2次試験の対策を行う。そういう時期です。

経済学部というところに勤務しておりますので、最初から教員を目指して入学して来ている学生は本当にごく少数で、民間就職を希望している学生が非常に多いという学部なのですが、その中でも教員を目指して教師になりたいという事で、採用試験を受けようと準備していた学生が、直前でやはり今、企業の就職状況が極めて売り手市場と言いますが、学生にとってすごく有利な、状況にあり、コロナの反動もあるようで、かなり大手の企業もいろいろな内定を出している状況が多く、この学生だったら教員採用試験に通ると思っていた学生が、1次試験の合格をいただいていたのですが、企業の方に行きますと・・・通っているのにとということで昨日も面談していたのですが、そう言う学生も実はおりました。その中でちらっと言ったことで『先生ブラックですね』多くいろいろな形の世界調査で、杉村先生もそういうところ詳しいと思うのですが、世界の調査でも『日本の学校の先生が一番ブラックだ』というふうに報道されたということもあり、ブラックが浸透しています。ただその学生に言ったのですが、厚労省が大学を卒業してどれだけ離職しているかというのを調査しました。その中で1年未満に民間企業へ就職して離職する人が大体10パーセントから12パーセントくらい。1割くらいが1年以内に辞めていっている中で、学校の先生は大体1パーセント前後なのです。ということはブラックと言っても考えてください。ブラックと云ったら普通に辞めていく、でも学校の先生が辞めないのは何故なのという話をしました。その中でやりがいの部分であり、人の人生に関わるような仕事ということで、勤めてみると一生続いていくことが出来る仕事だと思って辞める人が少ないということもあるみたいです。ブラックと言われていますが、はたしてそれは本当にブラックなのかというのがこの数字ではないの

かということをお話していたのですが、やはり企業に行くらしいですがそういう話を昨日していました。やはり教育というのはソフトな部分と先生方に質の高い保育や教育をしていただくという部分と、条件整備をする部分のハードな部分と両方で初めて教育活動が成り立つと思います。我々が今日指している認定こども園というのは特に就学前の子ども達の関わる教育ということで、例えばアメリカのある調査で就学前にどれくらいのお金を掛けて教育をした子ども達と、そうでない子ども達、日本では絶対出来ない調査なのですが、追跡調査を何十年掛けてやって来ました。その中で就学前に一定の教育を受けることが出来た子ども達は人生の中で、年収であったり犯罪をする確率であったり、また失業する確率であったり、いろいろな部分において一定のポイントが高いということが出ておりました。

やはり就学前の教育は大切だと、特に非認知能力という部分に置いて、認知能力というのは例えば試験で点数を取るとか覚えるとかといった部分が認知能力と言われていて、それ以外の非認知能力というのは人とコミュニケーションを作るとか協調性をもつというのが非認知能力といわれています。その非認知能力が人間の成長の中でMAXに発達するのがおおよそ6歳から7歳と言われていています。小学校に入る前にある一定の人数の中で協調性であったり他人を思いやったりする気持ちをもつという様な保育あるいは教育が出来れば『より良い人生を送れる可能性が高い』といった調査が出ております。

そういったことにおいても我々はまさにそう言った部分を審議し、より良い認定こども園をつくっていくということになると思うので、引き続きどうぞよろしくお願い致します。

事務局 ありがとうございます。

本日杉村委員様、辻倉委員様、福田委員様につきましてはオンラインでの参加となります。よろしくお願い致します。

本日は田中委員様は欠席の連絡を頂いております。前回欠席されておりました今回出席される3名の方をご紹介させていただきます。

———前回欠席の委員紹介———

出席の委員の皆様どうぞよろしくお願い致します。

規定により、以後の議事進行につきましては奥田会長にお願いしたいと思います。会長議事の進行どうぞよろしくお願い致します。

4. 審議(1)

会長 よろしく申し上げます。

それでは会議次第に従いまして進めさせて参りたいと思います。

まず審議事項の(1)『保護者等へのアンケート結果について』ということで事務局の方から説明よろしくお願い致します。

事務局 私のほうから資料1、吉野町立認定こども園の今後のあり方に関する保護者アンケートの結果について説明をさせていただきます。

1枚目に配布させていただきました、アンケート資料が載っております。

前回の審議会でご審議いただきました設問3の項目について頂いたご意見を反映させ、事務局で再検討致しましてもう少し具体的な文言にしたり非認知能力の項目につ

いても増やしたりしております。

また、設問7についても項目9番を追加して配布させていただいたことを事後となりますが報告させていただきます。

それでは資料に従ってアンケートの結果を報告させていただきます。

——アンケート結果の説明——

会 長 ありがとうございます。

それでは保護者等へのアンケート結果についてということで今事務局の方から説明いただきました。この内容について質問等おられましたらご意見いただきたいと思います。

…… 意見なし ……

よろしいでしょうか。

また最後に皆様方から毎回恒例になっておりますが、1人3分程度ご意見等頂く場を設けておりますので、また何かありましたらその場でもおっしゃって頂いたらと思います。では次に進めさせていただきますと思います。

5. 審議 (2)

会 長 それでは審議事項 (2) です。『吉野町立認定こども園の具体的な方策 (案) について』事務局の方から説明をお願いいたします。

事務局 失礼します。では私の方から吉野町立認定こども園の具体的な方策 (案) について説明させていただきます。資料2をご覧ください。

——吉野町立認定こども園の具体的な方策 (案) の説明 資料2①～④——

会 長 ありがとうございます。

それでは吉野町立認定こども園の具体的な方策 (案) についてということで、今事務局の方から説明いただきました。両こども園の先生方が、5月18日6月1日・15日忙しい中3度も専門部会を開いていただいて、教育及び保育の基本、内容、諸費・制服教材費等また、園名の検討した結果について事務局から方向頂きました。全般を通して何か今の報告について質問等ありましたらお出しいただきたいと思います。

…… 意見なし ……

特に諸経費や制服の部分に於いて両こども園で精査して項目によっては上下している物もあるが、今以上に保護者に負担がかからないようにいろいろなことを先生方で考えて金額を出していただいた。

園名について、吉野という地名が世界遺産を抱えている地域でもありますし、国内外に於いても吉野が認知されているし、誇りをもてる地名であるということで、「よしの」の名前を残していただきたいという案も先生方から頂いております。これについてどうでしょうか、皆様方からご意見いただけますでしょうか。オンラインで参加の皆様もご意見ありましたお出しください。よろしいでしょうか。願っていた方が多いかと思います。原案としては『よしのこども園』でよろしく願いいたします。

6. 審議（3）

会 長 それでは続いて審議事項（3）「保護者等意見交換会について」に移らせていただきます。この内容について事務局から報告お願いいたします。

事 務 局 私の方から、保護者等意見交換会についてご説明させていただきます。アンケート実施以後、そこには書き切れなかったということでわかばこども園の保護者からアンケートとは別にご意見を頂いております。また、5月に各園に於いて保護者説明会を行った折に、よしのこども園の保護者から直接意見を述べる機会をつくって欲しいということで、6月22日時間設定は迷ったが、19時から町の中央公民館で意見交換会を行いました。わかばから1名、よしのから5名、計6名の保護者の参加あり、今回のあり方の進め方や子育て世代の移住についてなど幅広くご意見を頂きました。また、意見交換会の開催の時間帯についてご意見を頂いたこともあって、2回目の保護意見交換会をこども園部会の先生方と一緒に7月14日よしのこども園に於いて14:30から行いました。わかばより7名よしのより4名計11名の参加をいただき、1園化に向けての進め方や取組、保育教諭の待遇、園児同士の交流や行事の進め方、通園バス等のご意見を頂いております。[資料3]をご覧ください。

——資料3①～②について説明——

会 長 ありがとうございます。それでは保護者等意見交換会についてということで、今事務局の方から説明をいただきました。2回意見を求める会を開いていただきました。6月22日と7月14日時間帯については保護者の方の生活の実態に配慮して時間帯を変えて2度開いていただいた。様々な観点でご意見をいただき、事務局からもこのような形で回答いただいている。全般を通して何か今の報告について質問等ありましたらお出しいただきたいと思えます。

…… 意見なし ……

特にわかばこども園の保護者から開園の時期を、1年猶予をもってしてはどうかという意見も出ていたということでしたが、これについてご意見ありますでしょうか。

委 員 資料2-①の中で線をひいてくれたあるところ、なぜ1園化するのかここが一番大事なところだと思う。次長の方から報告があったが、保護者の意見と事務局からの回答を丁寧に書いてくれてある。賛否両論あるが、保護者の中には急ぎすぎではないかという意見が出てくるのは当然だと思う。資料2-①にありました。何故この時期に、この形で来年度からするのかという説明は、子どもたちにとって、こういう力をつけるためには絶対に必要なのだということがぶれなければ、順調にいくと思うので、何故するのかということを伝えていけば賛否論いろいろな意見はあると思うが、教員や保護者等に説明はつくのではないか。資料2-①でよくわかった。

委 員 小学校が一緒になったことで、今まで活動していなかった児童が誘い合ってスポーツをするようになった。私は国栖地区なのですが地区の子どもたちが今まで進まなかった方向に進んでいる。こども園の子も同じように多くの子どもたちと触れ合うことができれば、親御さんも含めてそちらの方向に進むのではないか、先ほど校長が言ったように

同じように私も思っています。

会長 保護者アンケートを説明していただいた時に、どんな力を幼児期に身につけて欲しいのかというところで、『他者への思いやり』が両園で一番多い意見だった。『話を聞く思いを伝えるなどの言語活動』など、コミュニケーションにかかわる力を身につけて貰いたいということであれば、ある一定の人数の中で子どもたちがそれぞれかかわって、そこで学んでいって欲しいという思いがアンケートに表れている。この審議会で昨年度から1園にというところの大きな意見として出ていたのは『ある一定の人数の中でしかこのような教育は行えない』ということがあった。1年間猶予して交流を行なっていくということも大切な意見ではあるが、同時にどうして1園化を目指していくのかを先程委員の方から言っていた。もし他にご意見がないようでしたら、原案通り、令和6年4月から開園を目指していくのが、今回の認定こども園のあり方の一番大きな目標を達成できると考えます。他にご意見がないようでしたら、原案通り令和6年4月からの開園を目指していくということでもよろしいでしょうか、もちろん交流を充実して欲しいというご意見もあったということをしっかり受け止めたいと思います。それでよろしくお願いたします。

7. 審議 (4)

会長 それでは続いて審議事項4 [その他]の方に移らせて頂きたいと思います。先程予告しておりました、本日初めて参加される方もおられる方もいますが、最後に今回の全般を踏まえて皆様方から3分程度ご意見・ご感想等頂きたいと思います。名簿の順にお名前を挙げさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

委員 会長からもありましたが、一定以上の人数の中で子どもが育ち合うことが重要であることを改めて感じた。多様性がキーワードになっているのですが、子どもが初めて多くの人、大人もいる。やはり子ども同士というのはお互いに予測がつかないが、大人は予測のつくような接し方をする。子ども同士ではそうはいかない環境の中で、他者を理解するとか、いろいろな葛藤を抱えてそれを乗り越えていくというような力は、多様性の中で育っていくと改めて感じている。資料2-②認定こども園の教育及び保育の基本の中の吉野町学校(園)教育の指導方針 園小中における育むべき力の中に、4つ挙げられている。「学び・考え・探求する力」「個性が輝き、他者と共生する力」「健康・安全でたくましい心身」「地域から学び、協同する力」これらは独立しているのではなく重なる部分があり、学び考え探求するにも、他者と共生しながら共に学ぶことで、より個性が輝くというふうに。何か組み合わせさせた具体的な活動内容や、吉野の地域の特性を生かした学びを、幼児期の段階から切れ目なく小中と連続的に育ていけるような具体的な活動内容を充実させていくとよい。

委員 資料2-②の「特に礎として育みたい力」の4つがポイントだと思う。③非認知能力小学校に上がるまでに、是非吉野町のこども園の保育内容の中で充実していただきたい。資料2-①の方向性①の中に非認知能力という言葉が盛り込まれている。4行目の直接的な経験を重ねる中で、豊かな感性や表現力・思考力を育む。この地域ならではの直

接的な体験、吉野町ならではの物価に触れるような機会を通して、是非子どもたちに豊かな感性や表現力・思考力を育てていただきたい。通園バス運行ルートについては、保護者の方は、バスに乗るところから保育活動が始まっていると思っている。安心な気持ちでバスに乗れるよう配慮いただきたい。方向性②のところですが、保護者の方々の意見も反映して考えたときに、保育教諭の数が足りない状況があった場合、今の社会情勢を反映するような務め方、短時間勤務も検討いただきたい。方向性③にかかわってですが特別な配慮が必要な子どもたちは、こども園の中では特別な学びの場がなく、集団保育の中で必要な子どもたちに適切な支援をすることになる。集団保育の中で、どのように支援していくかを専門家の意見を伺いながら深めていただきたい。早期診断が早期療育につながっている。保育教諭の先生方にも保育だけではなく、今も行っているが、1園化した時には医療や福祉と連携して行っていただきたい。方向性④の中で、保護者をつないでいただいている学童の先生方と、小学校に引き継ぐのと同じようにの引継ぎがあればいいのではないかと思います。

委員 いろいろな委員が話されていたことを考えながら聞かせていただいていた。校長先生がおっしゃった資料2-①社会性が著しく発達するこの時期に・・・という下線部のところ「来年度スタートするにあたって重要な理由になる」とおっしゃったことがその通りだと思う。社会が大きく変化する中で、幼児教育の重要性を見直していく時期に来ている。冒頭で会長もおっしゃったが、幼児教育の中で非認知能力を育まれたものが社会の問題や要請に必要とされている。この理由から保幼小の連携が必要だと強く言われている。吉野町がこども園を1園化するにあたって、保護者から意見を頂いたりアンケートを取ったりされた中で見えてきた地域の実情を生かして、園小接続を進めていただきたい。杉村先生がおしゃっていた学校目標に挙げられているような内容と今回1園化後のこども園での特色ある取り組みを合わせて考えていく中で、アプローチカリキュラムやスタートカリキュラムの中で取り組んでいただければ有効であると考え

委員 一人の保護者として、意見も吸い上げてくれているし、そのことに対しての回答や資料などよく考えてくれていると感じている。現状こども園によくしてもらっている。今これだけいろいろな意見を受け入れてくれることで、この先のこども園で子どもたちにも学んでほしい。安心してこの通りになっていけばよいと思っている。いろいろ聞いてくる保護もいるが、満足している保護者もいることを伝えたい。

委員 様々な保護者の意見を吸い上げて貰っている。一人の親としてありがたく思っている人数が少ないわかばの親なので、できれば来年は猶予の期間に思っている気持ちもわかるし不安に思っている親の気持ちを身近に感じている。最後はこども本位で、子どものために出来るだけ早い時期にと言われれば納得せざる負えない。親の不安は子どもに影響がある。意見交換会を経ても、もしかしたら猶予期間を作ってくれるのではないかと期待している人もいる。何故1園化がいいのかということをお納得できるようにぎりぎりまで寄り添っていただくと安心してもらえる保護者が増えるのではないかと気がかりです。

会長 特に今後不安に思っておられる保護者もおられるということは、事務局は十分にわかってるので、より丁寧な説明が求められるということで、よろしく願いいたします。

委員 河原屋の公民館でラジオ体操をしたいということで、私も参加した。河原屋にはたくさんの子どもがいる。20人ほどの子どもが来ていた。普通の地区では考えられない。何故かという住宅ができて一軒に2～3人の子どもがいる。ラジオ体操後にはみんなで楽しく掃除をした。何故1園化するかといえば人数が少なくなったからだと思う。町としては人数が少なくなってからどうするのかではなく、少なくなる前に手を打つ子供を増やすことを考えて欲しかった。減ってからでは遅い。日本中少なくなっているが、人数を増やす方法を考えないと発展しない。

会長 新しくできる認定こども園の教育保育が充実して魅力的なこども園になれば、吉野町で子育てしたいという人たちが増えてくれるということもあるかもしれない。そのようなこども園になれるように、我々がいろいろなアイデアを考えて出していかなくては行けない。

委員 こども園の教育保育に望むことは、これからどのような子どもを育てていこうかということだと思う。今日たまたま奈良のボーイスカウトを連れて国栖にキャンプに来た。みんな素直に「はいはい」と返事をするがそれ以外はない。少し物足りないという話を聞いた。小さな子には無理だが、これをスタートとして指導する方々には子どもが言葉で返せるような質問などをなげかけて、大きくなったら意見が言えるような教育を打ち出して進めてほしい。

会長 子どもたちはいろいろな人とかかわって、自分の意見を相手に伝えて、相手の意見もしっかり受け止めて、その中で成長できる集団を作っていくことだと思う。

委員 吉野さくら学園開校して1年と少し経つが、開校の時にはこのような会合がたくさん重ねた。小学校2校と中学校が一緒になることで、急な環境の変化に大丈夫か？という意見があった。不登校の児童が、違う友達等に対する懸念があったが、ふたを開けてみると劇的にいい方向へ向かった。特に中学部の4名はほぼ学校に来れている。子どものよい所探しになると5人いれば5つのその子良いところを探してあげられる。本校は60人を超えるスタッフがいるので、60通り声をかけていいところが見つけてあげられる。そのことが、子どもたちが学校に来れる理由の一つかと思う。こども園も不安材料があっても、かかわる先生が増え、いいところを認めてもらう先生が増えるので、ぜひ早くしてあげればよいと思っている。校門で子どもたちを迎えている時にこども園のバスが通る。園長先生が乗っている場面も多々ある。先日他府県で子どもがバスに取り残されて亡くなる事件があった。その時運転していたのは園長先生だった。吉野町が1園化すれば、少なくとも園長先生が園に残って統括できる余裕が出てくるのかと思う。保護者のアンケートでよかったことは『他者への思いやり』を最重要に考えてくれていることである。学力等は伸びる伸びないはあるが、学力がつけばつくほど子どもに大切なことは『他者への思いやり』これがないと社会に出た時に、必要な人材にはなりにくい。吉野町の保護者の皆さん、教育委員会、先生方で、よい園ができると思う。

委員　こども園を開園するにあたって、主人公は子どもたち、子どもたちを育み育ててくださっている保護者が主体となって輝ける園になればよい。保護者の意見は資料を通じて、また、両こども園の会長さんの話を聞かせていただいて、どのような思いで、このことに携わっていかうとされているのかということがよくわかった。思いを生かして園をつくる。ラストスパートではないが、これから令和6年度に向かって時間との勝負でよい園をつくっていく。園をつくるキーワードがたくさん出てきた。社会性や非認知能力を育てる。小学校でもこの能力を育てるために先生方は頑張ってくれている。園小連携事業では1学期の終わりに実践を発表し合った。園も小学校も熱心に取り組んでいる。連携を進めるにあたって、スムーズに育ちの連続性を作っていけると思う。多様性や共生を育むためには、一定の人数の中で・・・ということを考える会議となっている。もう一度立ち返ってよい園づくりを皆さんで進めていければよいと思う。

委員　職員が多いと一人の子どもを多様な見方ができる。子どもによってはこの先生しかだめだと思う子もいるが、時間をかけていろいろな教職員とかかわれるようになる。子どもが見せる顔は先生によって変わる。子どもから見てもいろいろな先生がいることでコミュニケーションも学ぶ。いろいろな子どもがいることで、かかわり方も学ぶ。それにはある程度の人数が必要。子ども同士で育っていく。新しい園が楽しみである。

委員　わかばこども園の保護者からご意見を頂いたことに対して丁寧な対応に感謝している。保護者から直接話を聞くこともあり、短いスパンの中で一つになることに不安を抱えているのも事実である。非認知能力を育むためには、小さな時に育むことが大切で、それを小学校教育に繋げていく大切さを伝えていくのは園の役割。今後、様々な意見があると思うが、園としては事務局と一緒に丁寧に説明していきたい。

会長　ありがとうございました。以上をもちまして本日の審議内容を終了させていただきます。それでは事務局に進行をお返しいたします。

8. 閉会

事務局　奥田会長議事進行ありがとうございました。委員の皆様貴重なご意見本当ありがとうございました。閉会にあたりまして土井教育長よりご挨拶させていただきます。

教育長　皆さん1時間半中身の濃いお話をさせていただきました。ありがとうございました。この町で子どもを育てたいが実るように私たちは頑張りたい。昨年度から審議会ではいろいろな議論があり、専門家の皆さんの知見を聞かせていただいた中で、非認知能力や一定規模の集団の中で、子どもが何かを学ぶということは、どういうところから学んでいくのか、こども園では、前で先生が授業をして学んでいくのではない。というように含めて、私自身も勉強した。2園の現状を見た時に、ある一定の人数を確保することは必要である。出来るだけ早くすることは子どものためである。ということをお聞かせいただき、私自身も納得したところである。わかばの育友会長さんがおっしゃる通り、保護者の気持ちは別のところにある。もっと早く言っておいて欲しかっ

たと随分聞かせていただいた。それも事実、今日の保護者会でのご意見の資料は、削除せずに賜った意見をすべて皆さんに知っていただいた。保護者会での意見も共有して、今後ゆっくりと納得していただけるように説明をしていきたい。聞く耳をもっていることも大事にしている。今後委員の皆様にはいろいろなことでご協力を賜ることがあると思いますが、よろしく願いいたします。次回は2年間の集約になるかと思えます。どうぞよろしく願いいたします。

事務局 教育長ありがとうございました。

次回の第6回の吉野町教育振興審議会は、8月25日（金）を予定しています時間は19時からです。この審議会が最後となります。事務局では、本日いただきました貴重な意見を取りまとめるとともに、次回の審議会で『吉野町立認定こども園の具体的な方策（案）』をお示しできるよう作業を進めて参ります。

それでは、これを持ちまして、第5回吉野町教育振興審議会を閉会いたします。皆様遅くまでご審議ありがとうございました。